

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人仁風会	代表者	見元伊津子	法人・事業所の特徴	基本方針を念頭にご利用者、職員が笑顔の絶えない施設をめざしています。平屋建ての住宅で中庭があり、明るくご利用者もいきいきと利用されています。室内・室外行事を積極的に実施し、地域行事にも積極的に参加しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 クローバー	管理者	加藤久美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	5 人	人	1 人	1 人	人	2 人	人	11 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
1. 事業所自己評価の確認	管理者、ケアマネ以外の職員がどのように意見を出し、反映しているか、また改善に向けた取り組みをどのように行っているか、どのような研修を行っているか等具体的な取り組みを会議でお伝えし、意見交換する機会を持つ。	職員一人一人と事業所全体の取り組み評価は出来ている。今年は感染症予防のために予定していた取り組みが不十分に終わった事も多く、このような環境でも工夫しながら取り組んでいくように様々な工夫が必要であった。	事業所評価の中で訪問支援の内容や成年後見制度の仕組みがわかりにくかったり、プライバシーや人権について職員個人の想いに違いがあった。	クローバーの支援内容が詳細に分かるように具体的事例を紹介する。コロナ禍において職員のモチベーションやケアの質の向上のため勉強会等を実施していく。
2. 事業所のしつらえ・環境	利用者が安全でくつろげる空間を今後も見直ししながら作っていく。	自宅と同様にくつろげ、かつ季節感のある装飾を毎月行っている。	広報誌で室内の様子は確認できた。感染予防についての環境面の取り組みの写真を載せると分かり易いのではないかな。	今後も継続して環境整備に努めていく。感染予防のために不便であったり、ストレスが溜まらないような環境作りに努めていく。
3. 事業所と地域のかかわり	他事業所の取り組みを参考にし、地域との関わりについてクローバーでできることを検討し計画、実践する。	今年は感染予防の為十分な連携や他事業所との取り組みができなかった。可能な限り外部会議への参加と電話等でのやり取りは継続して行っている。	コロナ禍で外出制限がされる中、できうる工夫や努力が見られる。特に地域の清掃活動における近所の方とのコミュニケーションは素晴らしいと思う。	春日市近郊の感染状況を見極めながら、可能な限り地域の行事や活動に参加していく。関係が途絶えないように書面や電話等でコミュニケーションを取っていく。
4. 運営推進会議を活かした取り組み	次年度もテーマを計画する。より参加者が主体的に出来る様に聞き取りやアンケートを行う。	今年度はほとんど対面ではなく書面でのやり取りとなった。年間取り組みも十分に実施することが出来ず、クローバーからの発信が中心となってしまった。	職員が会議の意義を理解できていない。事業所だけで解決できない困難事例を取り上げ、意見交換してはどうか。	職員への運営推進会議も意義をもう一度説明し、主体的に地域活動に興味をもつような機会を作る。事業所内の事例を用いて地域との連携や困難事例について紹介していく。
5. 事業所の防災・災害対策	地域での防災訓練への参加。クローバーの防災計画（BCP）について意見交換を実施	地域の防災訓練には参加できなかった。マニュアルについては報告できたが、意見交換には至らなかった。	行政、公民館との連携は今後の検討課題である。	地域の防災訓練への参加。防災計画の見直し、行政、公民館との連携方法の検討